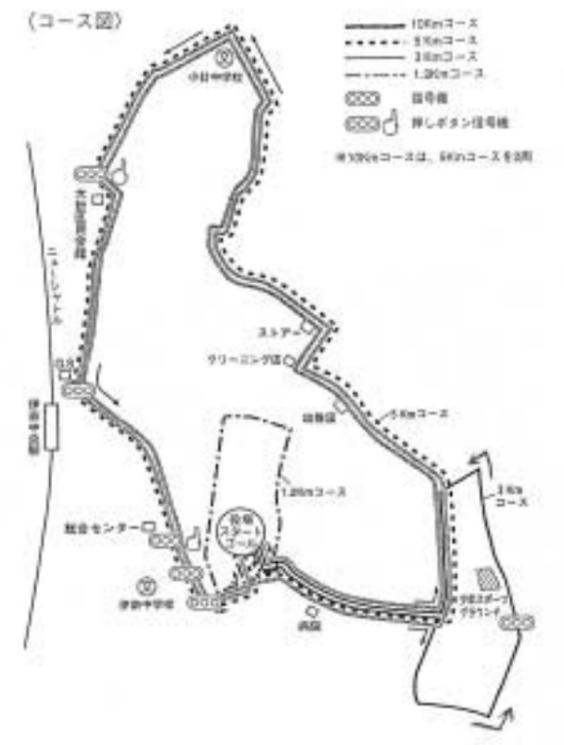


# 第22回 町民健康マラソン大会

日時 12月12日(日) 受付8時～  
発走 9時～ (閉会式は12時ごろ予定)  
※小雨決行・悪天候の場合は中止



種別 男子①小学生の部(3km) ②中学生の部(5km) ③16～39歳の部(5km) ④40～49歳の部(5km) ⑤50歳以上の部(5km) ⑥16歳以上の部(10km) 女子①小学生の部(3km) ②中学生の部(3km) ③一般女子の部(3km) ④共通①親子の部(1・2km) ⑤資格 町内在住・在勤・在学の方(小学5年生以上) および体育協会加入者で健康な男女(年齢は大会当日の満年齢で区分する) 親子の部は小学1～4年生と保護者のペアとする(保護者重複参加可能) 参加費 16歳以上500円、

親子の部200円(小・中学生は無料)  
※申込み締切り後は、参加費は返金できませんのでご了承ください。  
表彰 各種目の入賞者にメダル授与、3位まで賞状授与、ただし、親子の部については特に行わない。完走者に完走賞、参加者に参加賞。  
主催 町体育協会  
11月25日(木)までに申込用紙に必要事項を記入のうえ、参加費を添えて教育委員会体育課へ(小・中学生は保護者の同意が必要)  
※大会当日の申し込みは不可  
体育課 2551

## スポーツの結果

### 第52回町民バドミントン大会

- 9月12日(日) ゆめくる
- 男子の部 Aクラス  
優勝 小林小島組(ユニシャトル)  
2位 加賀谷・加賀谷組(一般)  
3位 斉藤・吉田組(すみれ)
- Bクラス  
優勝 小林門馬組(ユニシャトル)  
2位 山下・内藤組(一般)  
3位 柿沼・山西組(一般)
- 女子の部  
優勝 尾崎・富山組(ポップコーン)  
2位 伊勢谷・出野組(ポップコーン)  
3位 宮下・中山組(ユニシャトル)

### 秋季町民ソフトテニス大会

- 9月19日(日) 記念公園テニスコート 参加者70名
- 男子の部  
優勝 野口・坂本(伊奈クラブ)
- 女子の部  
優勝 小林・設楽(伊奈中)  
2位 佐々木・竹村(伊奈中)  
3位 黒須・嶋田(伊奈中)  
3位 神津・野口(伊奈中OG)

### 町硬式テニス連盟 クラブ対抗戦



- 混合の部(参加20チーム)  
優勝 サンライズB  
2位 ファインショットA  
3位 サンライズA
- 男子の部(参加14チーム)  
優勝 伊奈クラブ  
2位 綾瀬クラブ  
3位 キッズA
- 女子の部(参加10チーム)  
優勝 ファインショット  
2位 サンライズ  
3位 プレイバル
- コンソレ優勝 Z

9月12日(日)混合の部  
9月19日(日)男子の部・女子の部  
丸山テニスコート・記念公園テニスコート他



▲男子の部



▲女子の部

## アンドリューの "What's on"



### No.7 Japanese and English Education (日本とイギリスの教育)

日本とイギリスの教育制度には多くの相違点と共通点が見られます。イギリスの制度において、学生は成人(16歳～18歳)教育、高等(大学)教育期間での勤勉さを求められます。日本の教育制度においては、中等教育、高等教育期間での勤勉さが求められるでしょう。私は、「日本では大学に入ることが、学生が直面している最も難しい問題である」という友人の話から強い印象を受けました。一度よい大学に入学してしまえば、学生は少しばかりリラックスする余裕が生まれるようですね。一方イギリスでは、よい大学に入学するという事は大学教育の最初の一步にしかすぎません。大学生活の始まりから勉強量は年々増えていきます。イギリスの大学のおそらく3年次に受けるプレッシャーが日本の高校生が受ける(大学受験の)プレッシャーと同じですね。

イギリスでは、学校の分類が日本とは少々異なります。イギリスの学校の分類はアメリカ教育を基礎としています。イギリスでは、小学校(Elementary school)はPrimary schoolと呼ばれます。Primary schoolは5歳から11歳の子どものためのものです。イギリスの総合中等学校(11歳～16歳)は、いわゆる日本の中学校に近いです。総合中等学校を卒業後、学生の義務教育は終了します。そのため学生は成人教育を続けていくか、働く道へ進むかの選択することになります。成人教育はたいていカレッジあるいは第6学年と言われます。高等教育はもちろん大学を意味しています。カレッジ/第6学年では、学生は2～3の教科を専攻し、大学のプレッシャーをうまく処理するために必要なスキルをまず学びます。学生が多大なプレッシャーのもとに置かれるイギリスの教育において、成人教育はその最たるものです。勉強量は成人教育と高等教育を通して徐々に増えていきます。イギリスでは大学の最終学年がとて骨の折れるものであるのです。

There are many differences and many similarities between the Japanese and English education systems. The English system demands that students work hardest during their 'Further' (16-18) and 'Higher' (University) education periods. The Japanese system asks the most of its students during Junior High School and High school. I have the impression from discussions with friends that in Japan getting into University is the toughest task facing students. Once access to a good University has been gained students can afford to relax a little. Whereas in England getting into a respected University is the first step of the process. In England the work load increases steadily throughout University. The pressures of the Third year in an English University are, maybe, comparable to that of High school in Japan.

In England the labeling of the school system is slightly different to Japan, which is based on the American education model. In England Elementary school is termed Primary school. Primary school is for children aged five to eleven. English Comprehensive School is comparable to Japanese Junior High School. In England after Comprehensive School Students compulsory education is complete. They then have the option of continuing into Further and Higher education or entering into the employment market. Further education is usually termed College or Sixth Form. Higher education is of course referred to as University. At College/Sixth form students will specialize in two or three subjects and start learning the necessary skills to cope with the pressures of University. Further education marks the point during the English education process where students are started to be placed under greater pressure. Work loads steadily rise throughout Further and Higher education. The final year at University in England can be very demanding.

※アンドリューへのお問い合わせは、教育委員会学校教育課 2532へ



## AI♥犬フェスティバル



▲しつけ方教室



▲アジリティ

## 福祉まつり



▲高齢疑似体験コーナーにて  
10月2日(土)にふれあい福祉センターで、福祉まつりが行われました。模擬店のほか、小林完吾氏による講演会などのイベントや、高齢者の疑似体験ができるコーナーなども設けられ、多くの人でにぎわいました。